

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	ネイスぶらす浦和校		
○保護者評価実施期間	2024年12月6日		2024年12月27日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	44名	(回答者数) 33名
○従業者評価実施期間	2024年12月6日		2024年12月21日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	6名	(回答者数) 6名
職員の配置が多いながらも危険な状況も起こる	2025年1月17日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	運動を行うことが主の施設であるため、お子様の人数に対して職員を多く配置していること。	お子様の人数や状況に応じて、個別の対応もできるような職員の役割を分担して支援を行っています。 また、職員が多いためからこその多角的な視点での支援や運動指導を行っています。	職員の配置が多いながらも危険な状況も起こるため、再度支援の運営方法の振り返りや日々のヒヤリハットの共有→改善のサイクルを徹底してまいります。
2	「運動療育」として運動面に特化し、身体機能の向上に効果的な活動を行っていること。	運営母体であるネイス株式会社は体操教室を運営しており、当事業所でも体操教室での運動指導ノウハウや運動器具を活かして支援を行っています。それだけでなく、「療育施設」としてお子様一人ひとりの身体感覚や理解のしやすい方法に合わせて支援を行っています。	現在、利用していただいているお子様の「もっとやりたい!」を叶えられるように職員のお手本のレパートリーを増やすための練習や、常にワクワクとする経験を提供するための話し合いなど積極的に行ってまいります。
3	会社主体での研修会が定期的にあり、職員の資質向上につながっていること。	毎月系列店舗に在籍する職員全員が参加する研修会が設定されており、その中で様々なテーマの講習を受けています。また『児童発達支援管理責任者』『専門職』『児童指導員』といった役割ごとに求められる役割についての研修会も開かれ、それぞれの職責に対する意識向上にも繋がっています。	来年度からは在籍している職員が中心となって行う研修会も開催される予定なので、さらなる資質向上に繋がる事が期待されています。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	現在、職員とお子様の個別での関係が多くなっていること。	当事業所は開校して1年未満ということもあり、職員とお子様の信頼関係構築のためにも個々の関わりを強化してきた側面がございます。現在は特に自由な遊びの時間に職員を介して他のお子様と関わる環境づくりや支援に取り組んでおります。	お子様と職員の個々の信頼関係が作れてきたからこそ、信頼できる大人を基盤にお子様同士の関わりを増やす活動を多く行ってまいります。体操活動だけでなく、課題活動などで「お友達と一緒に楽しかった!」という経験を増やせるようなレクリエーション活動を増やしてまいります。
2	清潔な空間で安心して通所していただける環境づくり	地下にある施設の為、自然光が入らないことや風を通しての換気が難しい場合がございます。また、教室の外通路への行き来などに対しても急いでおり裸足で出てしまうことがありました。環境的な要因や職員の意識感について、現在改善に取り組んでおります。	職員間での話し合いの機会を増やし、それぞれが気になったことを共有し細かい部分での気づき→改善を行ってまいります。 また、保護者様向けのアンケート結果にも記載しておりますが空気清浄機を取り入れ改善を行いました。
3	個人情報の取り扱いに関して、十分な配慮ができていない可能性があること。	施設の構造上、壁面が天井まで塞がれておらず、施設外まで会話の内容が届いてしまっている可能性があります。 また保護者様へのフィードバックの方法にも課題があり、保護者様同士の距離が近く内容が聞こえてしまったり、併設店舗の職員が目を通ることもあるため、秘密保持の観点から課題を感じております。	現在も声量も抑えるなど意識していますが、施設内でお子様の話題を取り扱う際には、個人が特定できないようにインニシャルで呼ぶ、または比較的外部に聞こえにくい場所で行うなどの対応を行ってまいります。保護者様へのフィードバックに関しては少し離れた場所にフィードバック専用のスペースを用意し、距離を取るなどの方法を現在考えております。

公表

事業所における自己評価結果

事業所名	ネイスぶらす浦和校		公表日	2025年 3月 10日		
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	5	1	同線をはっきりさせるなど、児童が活動しやすいように活動の内容を工夫している。	部屋の広さはとれているが、利用人数によっては体操をする際には少し狭く、接触してしまう可能性もある。
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	6	0	適切な人数でどのように動けば効率よく安全に動けるかそれぞれが以前よりは少しは考えて行動出来ている。	児童数より職員の数少ない場面もあり、一人一人がやるべきことを明確にして効率よく行動できるようになる必要がある。
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	2	4	なにかを伝える時には必要に応じて視覚情報を提示するなど、一人一人の特性に合わせて支援を行っている。	教室が地下にある関係上来所するにはどうしても階段を使わなくてはならず、バリアフリーの観点からの配慮が難しい問題がある。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	3	3	毎日消毒や掃除をやっており清潔を意識している。空気清浄機が導入されたこともあり、以前よりは改善の傾向にある。	地下にある教室ということもあり、換気が十分にできていない可能性がある。
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	3	3	可能な場合は相談室などを使ってクールダウンができるようにしている。	クールダウンで児童が利用できる空間を考える必要がある。(相談室は設置されているが、使用中の場合もある為)
業務改善	6	業務改善を進めるための PDCA サイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	3	3	風通しの良い職場になるよう、常に職員と意見交換できる時間があるよう意識している。	業務改善についての話し合いをする機会があるが、振り返りを行う機会を増やしていきたい。
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	3	3	アンケートへの協力のお願いは、全スタッフ共通の認識で、保護者様へ伝える事が出来ている。	今回が初実施であるため、内容を検討し改善に向けて取り組んでいく。
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	3	3	上長が個別面談などを行い、意見を言える機会を用意している。	改善点や職員の意見などいえる場はあるが、改善まで実施することが難しいこともあるので、今後話し合いの機会を増やしていく。
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	1	5		
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	5	1	会社主体での研修機会があり、回数も増えている。	
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	6	0	運動課題の内容を写真に撮り、保護者様へお見せして伝えている。運動課題や個別課題は毎週違ったものを用意し、工夫して活動に取り組んでいる。	
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	5	1	個別支援計画書作成の前のアセスメントする面談は全員とじっくり時間が取れている。	
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	5	1	モニタリング会議、支援会議はかならず行い、全職員の共通認識と意見交換の時間を設けている。朝礼、終礼などでお子様の様子を共有し合い次の支援に繋げている。	
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	4	2	全スタッフが支援計画をいつでも閲覧できるようにしており、支援計画の内容を踏まえた活動を取り入れている。	休みの職員がいる際に行われた支援会議の内容についての共有がうまくできていないので、別途参加していた職員から共有する時間を設けていく。
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	1	5	その日の振り返りを踏まえて一日の終わりに子供の様子についての共有を随時行っている。	標準化されたアセスメントツールの導入を検討していく必要がある。
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	6	0		
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	5	1		
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	6	0	運動課題は毎月の目標やメインの体操テーマに基づいて設定している。	課題活動は集団で行っているが、一人一人の段階に合わせて工夫する必要があり、結果的に固定化に繋がっているかもしれない。
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	5	1	特性に合わせた個々の活動を取り入れ支援計画を作成し、活動を通して実行できている。	個別での活動は適宜行う事ができているので、集団での活動の機会を増やしていきたい。
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	5	1	朝礼や児童が来所する前に打ち合わせや役割分担を行っている。	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	6	0	終礼を行い、その日あった事を毎日共有している。	
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	6	0	日々の活動の記録を残し、保護者様へ公開している。	ヒヤリハットについて共有する機会をもう少し増やしてもいいかもしれない。
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	6	0		
24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	6	0			
25	地域の保健、医療(主治医や協力医療機関等)、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	5	1	関係機関連携を行い、幼稚園、小学校へ訪問している。		

関係機関や保護者との連携	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚園部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	6	0	関係機関連携として学校や保育園、幼稚園などに訪問し共通した支援を行える体制を整えている。	
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	3	3		今年度開所の為就学移行はこれからであり、今後の課題がでてくると思われる。
	28	(28～30は、センターのみ回答) 地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。				
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。				
	30	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。				
	31	(31は、事業所のみ回答) 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。	2	4		
	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	3	3		
	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	6	0		
	34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	1	5		
保護者への説明等	35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	5	1		
	36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	6	0		
	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	6	0		
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	5	1	日々のやり取りだけでなく、子育てサポートや家族連携としても適宜対応している。	
	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	0	6		
	40	こどもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	5	1		
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	4	2		
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	4	2	事業所の構造の関係上、店舗外に会話や電話の内容などが漏れている可能性があるため、声の大きさや会話の内容等気を付けている。	声量など気を付けているが、個人情報の取り扱いの観点からみると配慮が不十分な可能性がある為、声が聞こえにくい相談室を使うなどの工夫が必要と思われる。
	43	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	6	0		
44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	1	5			
非常時等の対応	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	5	1		
	46	業務継続計画(BCP)を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	6	0		
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	5	1	教室職員で確認、共有をしている。	
	48	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	2	4		現在、医師から投薬指示を受けてこちらで対応を求められる児童は在籍していない。
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	4	2		
	50	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	3	3		
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	3	3	当日に起こったことはその日のうちに共有、改善へ向けての話し合いをしている。	
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	6	0		
	53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	1	5		